

# ニホンヒキガエル



区分	宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
分布	本州の近畿以西、四国・九州、壱岐島、五島列島、屋久島、種子島および東日本の一部(人為分布)に分布している。 <sup>(1)</sup>
生態	生息場所は広く、海岸から高山まで広範囲に及んでいる。ミミズや小昆虫を主に食べる。繁殖期は10～5月と環境や分布場所によりばらつきがある。秋に産卵されたものはオタマジャクシのまま越冬する。 <sup>(1)</sup>

(1) 決定版日本の両生爬虫類、内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎、2002

# スッポン



区分	環境省レッドリスト: 情報不足 宮崎県版レッドリスト: 情報不足
分布	本州、四国、九州、沖縄島、石垣島、西表島、与那国島などに分布する。 <sup>(1)</sup>
生態	主に河川の中流から下流にかけて、平地の湖沼などの砂泥質の場所に生息する。肉食性で魚や貝類、甲殻類、水生昆虫などさまざまなものを食べる。春先の4~6月に交尾が見られ、6~8月に産卵する。 <sup>(1)</sup>

(1) 決定版日本の両生爬虫類、内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎、2002

# カヤネズミ



区分	宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
分布	本州の太平洋側では宮城県以南、日本海側では新潟県・石川県以南、および九州、四国、隠岐諸島(島後、西ノ島、中ノ島)、淡路島、豊島(香川県)、因島・大崎上島(広島県)、対馬、天草下島、福江島、口之永良島などに分布。 <sup>(1)</sup>
生態	低地から標高 1,200m あたりまで広く分布する。通常、低地の草地、水田、畑。休耕地、沼沢地などのイネ科、カヤツリグサ科植物が密生し、水気のあるところに多い。水面を泳ぐ。鳥が作るような球形の巣を作り、巣材にはススキ、チガヤ、エノコログサ、スゲ類などを用いる。巣のある高さは 70~110cm で、晩春と初冬に低く、夏~秋は高い位置にある。 <sup>(1)</sup>
配慮事項	河川整備などの影響で生息域が狭められ、生息数も減少してきている。河川敷や堤防のススキやチガヤの群落は生息場所として重要なので、残存させる配慮が必要である。また、湿った場所のイネ科植物の密集したところを好むので、湿地帯のオギなどの群落についても保存することが望ましい。 <sup>(2)</sup>

(1) 日本の哺乳類、阿部永、1994

(2) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996